

長谷川 望牧師

\*エマオというところに帰る途中のイエスの二人の弟子はイエスがパンを裂かれた時に初めてイエスだとわかり、すぐにエルサレムに引き返す。そこでは弟子たちが集まっていたが、その真ん中にイエスが立たれた。

彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」(ルカ24:36~39)

\*死んだはずの人が生き返って目の前にいると誰でも驚くであろう。イエスは信じられない弟子たちに十字架での傷のままの手足を見せて本物のイエスであることを示された。しかし、栄光の、死なないからだによみがえっておられた。「それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっている」のでイエスは、一匹の焼いた魚を食べることによって、肉体をもってよみがえったということを示された。

\*続いてイエスは聖書に関して大切なことを教えられる。「わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」(24:44) 新約聖書は全編通して人の救いのことが記されており、その中心はイエス・キリストである。旧約聖書に記されているイエスの誕生から生涯、十字架、復活に至るまで、新約聖書で実現する。

\*それから、イエスは、彼らをベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして祝福しながら、彼らから離れて行かれた。彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレムに帰り、いつも宮にいて神をほめたたえていた。(24:50~43) 再びイエスに会えた弟子たちは大喜びであったが、すぐに彼らから離れて見えなくなってしまった。本来なら、大いに嘆き悲しむところであろう。しかし、彼らは、今度こそイエスが神の御子キリストであることを確信し、永遠のいのちを持った方であることを悟ったのだと思う。驚いたが、喜んで、イエスの命令されたように「復活の証人」として救い主イエスを伝えていくことになった。私たちも主イエスの復活を驚きと喜びをもって信じ、伝える者になりたい。